

男女が共に認め合い、自分らしくいきいきと暮らしていけるいちはらの実現

令和2年
VOL. 41 PRISM プリズム



～男女共同参画社会をめざして～



//////////////////// CONTENTS //////////////////////

特集 / 男女共同参画の視点に立った災害への取り組みについて

性別や年齢、障がいの有無など、立場によって災害から受ける影響は異なります。男性も女性も主体的に防災について考え、実践し、地域の防災力を高めていくことが必要です。そのため、今号では「男女共同参画の視点に立った災害への取り組みについて」をテーマとしています。

- これまでの災害で起こったこと P1, 2
- 避難所の開設・運営管理について P3, 4
- 災害に備えるための工夫 ～育児・介護情報～ P5, 6
- LGBTについての市職員によるコラム P7

PRISMとは

プリズムを通る光は、多方面に分かれて進みます。そこで、多様な価値観をそれぞれが認め合えることをめざして、情報誌の名前にしました。

これまでの災害で起こったこと

(1) 被災・避難

- ・高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児等、避難に時間を要する人への支援が不足していました。
- ・避難や被災状況について、正確な情報を得ることが困難でした。
- ・電話がつながりにくく、家族と連絡がとりにくい状況でした。
- ・何を持って、どのように避難すればよいか迷う人が多くいました。
- ・ペット連れの被災者に、ペットの鳴き声や糞尿をめぐるトラブルなどがありました。

(2) 在宅避難

- ・乳幼児や障がい者のいる家庭が、泣き声などで他の避難者に迷惑を掛けるのではないかと遠慮して、自宅や車の中で避難生活を送ることも多くありました。
- ・必要な物資や情報、支援が得にくい状況がありました。

(3) 避難所①

《プライバシー・安全の不安》

- ・居住スペース内の仕切りや性別専用スペースがないために、プライバシーが守られず、ストレスがたまりました。
- ・就寝場所や入浴施設、更衣室など、見知らぬ人が多い中で安全面の不安がありました。
- ・女性や子どもへの暴力の報告もありました。

《必要物資の不足・配布方法》

- ・女性用、妊産婦用の衣類と生理用品、育児用品、介護用品が不足しました。
- ・物資担当が男性のみのことが多く、女性が必要な物資をもらいづらい状況でした。

《固定的な役割分担》

- ・食事づくりや清掃、介護が女性に偏るなど、性別や年齢等により役割が固定化することがありました。



なぜ防災において、男女共同参画が必要なのか？

これまでの防災への取り組みは、主に男性が中心となって進められてきました。しかし、東日本大震災を含む過去の災害の経験から、女性の視点が反映されていないために、女性にとって不便な状況が起きていたことが明らかになっています。災害時という極限状態において、多様な人々の暮らしを守るためには、女性も主体的に防災に参画することが必要なのです。

(5) 仮設住宅

- ・ 抽選や弱者優先等で仮設住宅への入居者を決めたところでは、被災前の地域のコミュニティがバラバラになり入居者が孤立し、引きこもりにつながりました。
- ・ 自治組織の責任者の多くが男性で、多様な生活者の視点が反映されにくい状況でした。
- ・ 仕事の重圧や、他人に弱音を吐くことを避ける傾向にある男性の精神面での孤立がありました。

(6) 復旧

- ・ 幼稚園、保育園、介護施設の再開が遅れたため、女性に家事、育児、介護などの無償労働が集中しがちで、就業の継続や再就職が困難でした。
- ・ 女性や障がい者、外国人が復興の話し合いに参加しにくい状況でした。



(4) 避難所②

《全体的な運営面での不公平さ》

- ・ 男性が責任者であることが多く、女性が要望を出しにくい状況がありました。
- ・ 女性や子どもに関わるニーズが重視されない傾向にありました。

《仮設トイレの使いにくさ》

- ・ 女性用のトイレには長蛇の列ができていました。
- ・ 男女兼用、鍵がかからない等プライバシー面に不安がありました。
- ・ 高齢者、障がい者に配慮されておらず、このような方にとって利用しにくい状況でした。

《食生活の偏り》

- ・ 菓子パンやおにぎりなど同じ食事が続き、栄養面の不安や体調不良がありました。

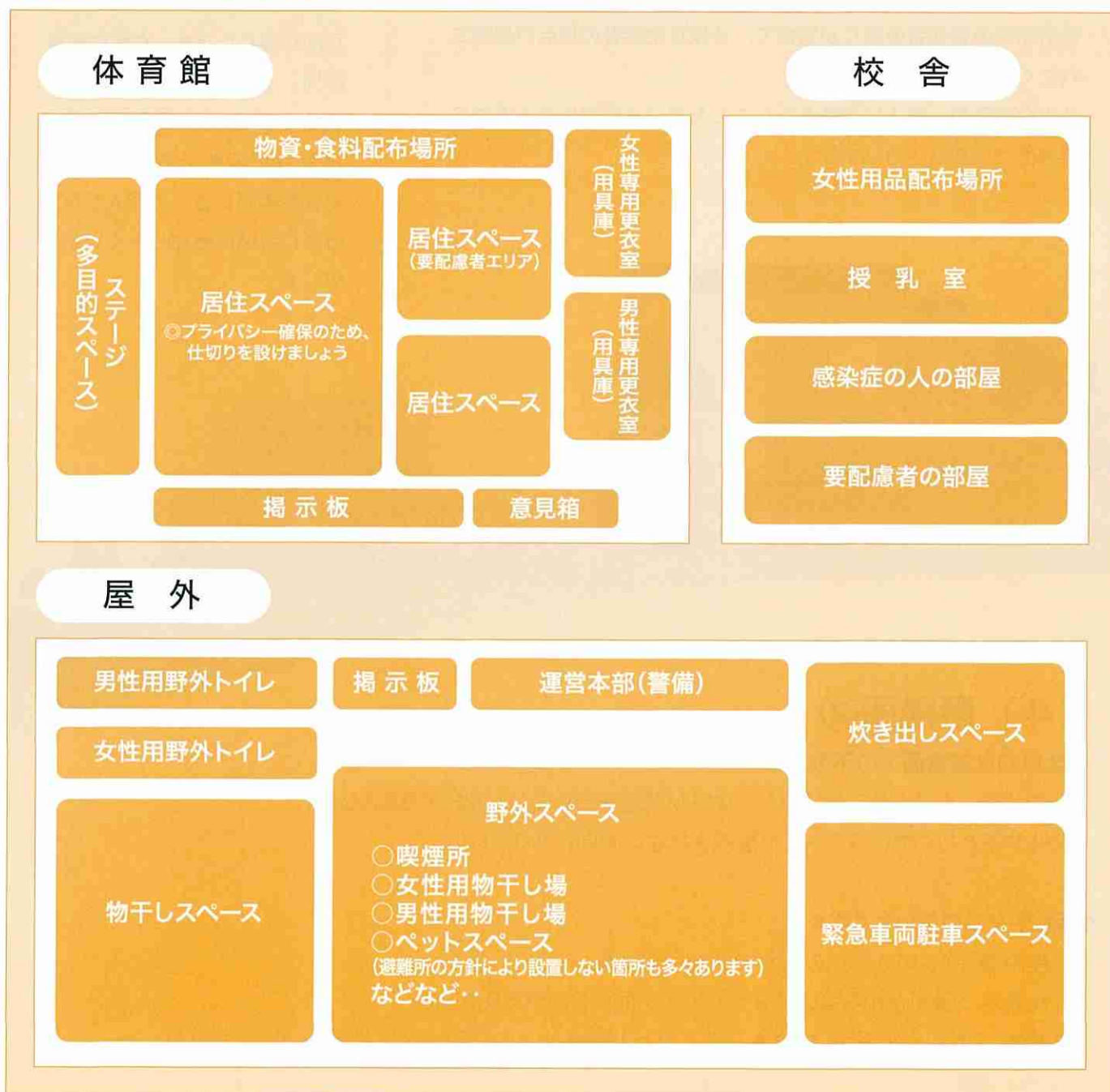
避難所の開設と運営管理について

市は災害の状況に応じて開設する避難所を決定し、市職員を派遣して避難所を開設しますが、開設後の運営は、地域住民の方々が行います。

避難所においても、男女共同参画の視点を取り入れることはとても大切です。

様々な人々が安心して過ごせるように、男女交えて話し合いを行い、運営の方法やスペースの活用等、事前に決めておきましょう。

《避難所レイアウト例》



※避難所の状況に合わせて、レイアウトを柔軟に考えましょう。

避難所運営の考え方

☆地域住民の方々が主体

・大規模災害が発生した場合には、徐々に避難者の数が増え、避難所生活が長期化する傾向にあることから、小学校区防災拠点(町会・自主防災会等)の運営支援やボランティア等の協力のもと、原則として避難者の自主的な自治組織「避難所運営委員会」の運営で行うことになります。

☆要配慮者や女性の視点に配慮した避難所づくり

・「要配慮者」とされる方々にとっては、生活が急激に変化することから、支援にあたっては十分な配慮が必要です。

運営のポイント

○役割のバランスを意識

・「家事や炊出しは女性、物資の仕分けは男性」と性別で決めつけず、男女で公平に役割分担することが重要です。

《避難所役割の参考例》

総務班	避難所運営全般の調整、避難所の記録、マスコミ対応
被災者班	避難者名簿の作成・管理
情報広報班	情報収集、情報発信、情報伝達
施設管理班	避難者の安全確認と危険個所への対応、防火・防犯
食料・物資班	食料・物資の調達、炊き出し、食料・物資の管理・配布
救護班	傷病者、高齢者、障がいのある方への対応
衛生班	ごみ、風呂、トイレ、掃除、ペット等に関すること
ボランティア班	ボランティアの受け入れ、ボランティアとの連携

物資の供給

○男女両方の物資担当者を配置

・女性用品(生理用品、下着等)のニーズ把握は女性が女性に対して行いましょう。

○女性専用の物資には供給の場所を工夫する

・女性用トイレや女性専用スペースに置く等の工夫をしましょう。

人権と安全

○相談窓口や支援機関の情報を一覧にして掲示

・DV被害者、高齢者、子ども、妊産婦、外国人などの相談窓口の情報を種類によって整理すると、避難者が利用しやすくなります。

○女性と子どもの安全対策

・DVや性暴力は見過ごさず、暴力を許さない雰囲気を作りましょう。

・巡回警備、ホイッスルの配布など暴力を防止する対策を行いましょう。

災害に備えるための工夫 ～育児・介護情報～

防災の備えや実際に起きた時の行動は、男女で区分するものではなく、みんなで協力して行うものです。「家のことだから妻に任せている」「力仕事は男の仕事」と任せっきりにするのではなく、お互いに協力しながら備えていきましょう。

自宅の家具の見直しをしよう！

危険なところに防災グッズを設置し、親子共に事故やけがを未然に防ぎましょう！

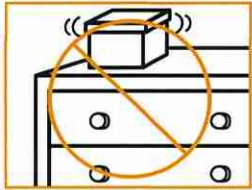
チェック①

大型家具の転倒防止をしよう
(突っ張り棒、L字金具など)



チェック②

戸棚などから落下を防ごう
(開き戸ロックの設置棚の上に物を置かない)



チェック③

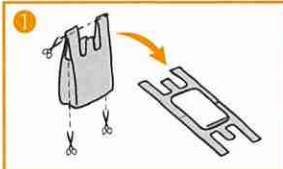
転倒やガラスによるけがを防止しよう
(家具用クッション、飛散防止フィルム)



乳幼児のための非常用バックの例

- おしりふき □紙オムツ □おんぶ紐
- 着替え □ビニール袋
- バスタオル (防寒対策、安全対策に◎)
- ミネラルウォーター □哺乳瓶 □粉ミルク
- お菓子 (非常時にあると安心です)

～覚えておくと便利な簡易おむつの作り方～



大きめのレジ袋を用意します。持ち手の端と両脇を切って開きます。その上に清潔なさらしやタオルなどを畳んで置きます。



布の上に赤ちゃんのお尻がくるように寝かせ、上側になった持ち手部分を赤ちゃんのお腹の前で結びます。



下側の持ち手部分をT字帯の要領でお尻からお腹の前に入れ込みます。



余った部分を下に折り返します。

避難所・待ち合わせ場所の確認をしよう！

緊急時に「あれ？どこだったっけ？」とついつい忘れがちになるのが避難所です。

日頃から家族みんなで避難する場所や待ち合わせ場所を確認しておきましょう！

我が家の避難場所は

『 _____ 』

です！

我が家の待ち合わせ場所は

『 _____ 』

です！



避難所一覧はこちら→

避難所は特に指定はないので避難しやすい場所に避難しましょう！



アレルギーがあるお子さんについて

①家族全員でアレルギー症状を確認！

何のアレルギー？→ _____

どんな症状が出る？→ _____

②アレルギーワッペンを用意しておこう！



作り方のポイント

- ☆小さい子でもわかるよう、イラストを使ってみましょう
- ☆たくさんアレルギーを持っている場合は、一覧表を作って、名札にするのもわかりやすいです

※1か月分の食料を備蓄しておくことも有効です

災害時こそ手洗い、うがいを忘れずに！

- ・流水とせっけんで手を洗い、ペーパータオルを使用しましょう。
- ・水が使えないときは、ウェットティッシュや手指消毒液を使いましょう。
- ・食後に少量のお茶や水でのうがいも有効です。

POINT

洗い残しがりやすい部分 ●

洗い残しがよくみられるところを重点的に洗いましょう！



手の甲

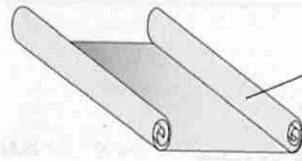
手のひら



当たり前だからと、ついつい忘れてしまいがちですが、集団感染を防ぐため、大人も子どもも意識してしっかり洗いましょう！

毛布やシートでできる簡易担架の作り方

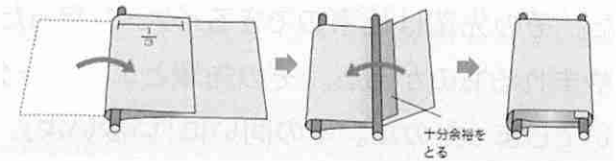
STEP1



毛布の端を丸めて持ち手を作るだけでも簡易担架になります。

STEP2

長めの棒（ほうきの柄や物干し竿）があればもっと運びやすい簡易担架が作れます。



十分余裕をとる

この方法なら女性や子供だけでも協力しながら運べます！！



今から始める！災害時に安心・安全に治療を受けるための薬の備え

- 自分の飲んでる薬について把握しよう！
お薬手帳を常に持ち歩くことが大切！
ですが、災害時には持ち出せないこともあります。
- ①お薬手帳の写しを財布や非常用バッグに入れておく。
(※情報は1,2ヶ月おきに見直しましょう)
または、内容をスマートフォン等で撮っておく。
- ②家族や離れて暮らす親戚などと薬の情報を共有する。
- 予備の薬を準備しておこう！
慢性疾患がある方は、急な服用中止から病状の悪化につながる危険性があります。
3~4日程度の予備の薬とその情報を非常用バッグと一緒に入れておくと安心です。

<お薬メモ>

名前： _____
かかりつけ病院・薬局： _____
既往歴： _____
薬の副作用歴：
有→薬剤名： _____ 症状： _____ ・無
アレルギー： 有→ _____ ・無
使用している薬
・例：〇〇錠〇〇mg 1日3回 朝昼夕 食後
・ _____
・ _____
・ _____

※わからないことは、かかりつけ薬局の薬剤師に相談しましょう。

「黙っているよりもちゃんと話そう、伝えよう」

要配慮者には、要介護者や障がい者、高齢者だけでなく、乳幼児や妊産婦、日本語の理解が十分でない外国人などたくさんの方が含まれます。誰もが安心して避難所生活を送るに当たり、支援される側も支援する側も不快な気持ちにならないよう、何ができて、何を手伝ってほしいのか、よく伝えあうことが大切です。

当たり前のことだからこそ、一人ひとり心がけておきましょう。

このページの記事は書き込み式になっているので、自分自身のケースに合わせて書き込んで利用してください。

コラム 市原市職員

「先輩がくれたメッセージ～誰もが住みよい社会をめざして～」

「男性が好きです」私が社会人になりたての頃、大学時代の先輩がSNS上で、そうカミングアウトした。その先輩は仕事のできるイケメンだった。そんな先輩と交わした学生時代の会話で、今でも悔やまれるものがある。その先輩とエレベーターで一緒になったとき、「先輩は彼女いますか？」と聞いてしまったのだ。その問いに「いないよ」と答えた先輩に私は、「イケメンなのにもったいないですね」と言ってしまった。先輩の事情を知る由もなかったとはいえ、きっとその先輩を傷つけてしまったのではないかと今でも後悔している。

しかし、その先輩のカミングアウトの衝撃とエレベーターでのやり取りへの内省によって、LGBTについて強い関心を持つようになった。

ある調査によると、LGBTを含めた性的マイノリティの方は、日本に8%ほどいるそうだ。これは、左利きの方やAB型の方の割合と大差がない。そう、皆さんの周りにもたくさんいらっしゃり、不用意な発言でその相手を傷つけている可能性があるということだ。

まず、必要なのはLGBTについての知識である。そもそもLGBTとは、性的マイノリティの総称のひとつである。セクシャリティ(性のあり方)は人それぞれであり、その組み合わせは無限にある。

その上で、LGBTの方の視点に立つということが大切である。例えば、企業の商品や行政の施策を考える際、それが誰かを傷つけていないか、皆に受け入れられるものになっているか確認するのである。LGBTの方をはじめとした消費者や住民の話を直接聴くことももちろん大切だ。

先輩はその後、LGBTの方が抱える種々の問題解決に向けて尽力しているとSNSで報告してくれた。現在、2015年の渋谷区におけるパートナーシップ制度の導入を皮切りに、次々とこれを採用する自治体が現れており、多くの方がLGBTを認識しはじめている。しかし、その根幹には先輩をはじめとした方々の大きな決断と行動が秘められていると思う。

先輩があの日くれたメッセージがきっかけとなり、少しずつ私は変わっていった。そして「誰もが住みよい社会」をつくる一人になりたいと思っている。

○参考

《市原市男女共同参画社会づくりプラン》
ホームページアドレス

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/kurashi/jinken/danjyokyodousankaku/plan2017.html>

○編集・発行 市原市 スポーツ国際交流部 人権・国際課

〒290-8501 市原市国分寺台中央1-1-1 TEL 0436-23-9826/FAX 0436-21-1720